

From Bonnard to Tillmans and Contemporary Artists
Interior Visions

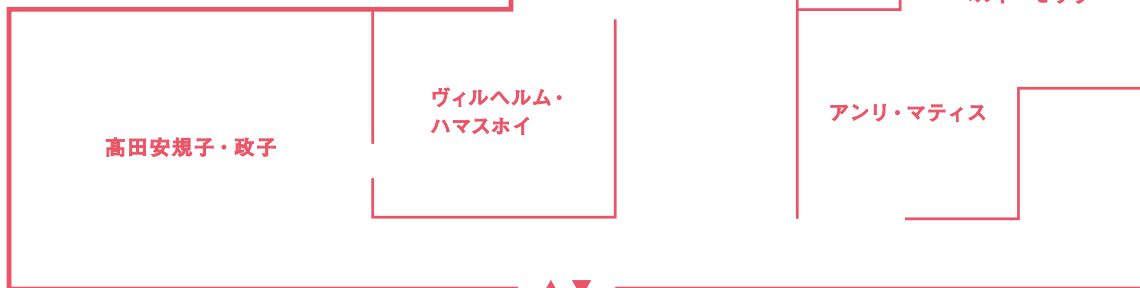
部屋の
みる夢

ボナールからティルマンス、
現代の作家まで

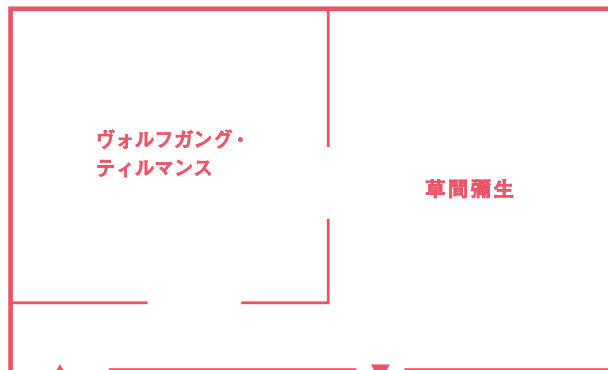
2023.1.28 [Sat] - 7.2 [Sun]

- 本展覧会には決まった順路はありません。会場マップを手がかりに、それぞれの作家たちの「部屋」をめぐるようにお楽しみください。
- 本展覧会では、すべての作品を撮影することができます。但し、フラッシュ、三脚、自撮り棒の使用、動画の撮影、他のお客様のご迷惑になる行為はご遠慮下さい。

B1 第1会場



B2 第2会場



ベルト・モリゾ

ベルト・モリゾ(1841-1895)は、近代生活の情景を素早い筆致で描き出して、高い評価を得た印象派の女性画家です。娘のジュリー(no.3)をはじめとする、家族や友人たちの織りなす親しみに溢れた日常を描き出すうえで彼女が好んで取り上げたのが、ベランダやバルコニーといった、室内と屋外のあいだに位置する空間でした。アトリエにおける伝統的な絵画制作ではなく、明るい色彩による新たな描き方を屋外で試みていたモリゾにとって、外光のなかで親密な室内の情景を描くことができたのが、これらの場所であったのです。

社会に参加する機会の限られていた当時、大半の女性が長い時間を過ごすのが常であったのが、家庭という室内の環境でした。男性の芸術家ばかりが活躍していた時代に、女性の画家として室内と屋外、すなわち家庭と社会との境界を再三にわたって捉えたモリゾの作品は、現代における家庭や暮らしのあり方を見つめ直すきっかけを私たちに与えてくれるでしょう。

ヴィルヘルム・ハマスホイ

デンマークの画家であるヴィルヘルム・ハマスホイ(1864-1916)は、その画歴において370点ほどの作品を残しています。全体の3分の1を占めるのが室内画であり、その大半が制作されたのが、1898年からおよそ10年にわたって画家が居住したストランゲゼー30番地の住居においてのことです(no.4)。この通りのある旧市街のクレスチャンハウン地区は、コペンハーゲンのなかでも昔日の面影を色濃く残しており、歴史的な建造物やその室内に積み重なる過ぎ去った時間が、ハマスホイの創作の源となりました。

自宅の室内に取材しながらも、モチーフを入念に選択したうえで現実を捨象したハマスホイの室内画は、それゆえに洗練された性格を備えています。日常生活において長い時間をともに過ごし、画家がその性格や魅力を十分に把握していたはずのモデルたち—妹のアナや母であるフレゼレゲ、そして妻のイーダー—がひるがえって寡黙であるのも、この性格に拍車をかけています。過去の時間が堆積する現実のなかから、明確な線描と灰色を基調とした限られた色彩のみを抽出して、調和に富んだ室内画を描き出した点にこそ、ハマスホイの独創性があります。

ピエール・ボナール

世紀末のバリでナビ派の一員として活躍したピエール・ボナール(1867-1947)は、生涯にわたり、家族の姿や自宅の室内など身近な対象を取り上げ、姪や甥といった子どもたちや、一家の一員である犬や猫が織りなす何気ない日常の記憶を描き留めました。また1893年に出会いの伴侶となったマルトは、一日に何度も入浴する習慣があり、画家は浴室で身づくろいをする彼女の姿をさまざまな構図や光のもとで描いています。それはボナールにとって多様な表現を試みる格好の主題であると同時に、マルトとのきわめてプライベートな思い出として絵画に刻まれています。

ボナールは、室内を主題とするだけでなく、室内を彩る装飾パネルや屏風等も手掛けています。豊かな自然とそのなかでくつろぐ人々や遊ぶ子どもたちといった情景は、画家の記憶をもとに、ときに空想と混じりあいながら、大画面へと広がっています。こうした幸福なヴィジョンは、部屋の外の開放的な光や空気を纏いながら、部屋のなかで過ごす人々を心地よい夢想へと誘います。

エドゥアール・ヴイヤール

エドゥアール・ヴイヤール(1868-1940)は、1890年代、ボナールらとともにナビ派の芸術家としてバリで活動し、象徴主義演劇の舞台美術なども手掛けました。照明やセットによって場面の状況や人物の心情を巧みに演出する演劇での表現は、絵画にも活かされています。長年母と二人暮らしだったヴイヤールは、自宅で過ごす彼女を登場人物として、穏やかな食卓から重厚な空気を纏う室内まで、明暗の効果を用いることによって、さまざまな物語を想起させる場面を描き出しました。

1900年以降、ヴイヤールは、著名人や上流階級の人々の肖像画の注文を数多く受けました。「肖像画ではなく、自分たちの家にいる人々を描く」という画家の言葉の通り、そこでは、人物だけでなく、彼らの人となりや雄弁に物語る周囲のモチーフや、彼らが過ごす部屋そのものが活き活きと描き出されており、部屋は単なる背景ではなく重要な主題の一部となっています。

アンリ・マティス

1905年のサロン・ドートンヌに大胆な色使いと筆致による作品を展示して「フォーヴ」(野獣)と称されたアンリ・マティス(1869-1954)は、1921年以降、明るい日差しに惹かれ南仏ニースを拠点として活動しました。ときに窓を通して差し込む地中海の光を取り入れつつ、壁掛けや調度、モデルの衣装にまでこだわった室内空間を描いています。こうした要素を自らの手で自在に操作できる部屋は、マティスにとって、色彩や空間の表現を思う存分探究することが可能な制作の現場でした。

マティスの描く部屋には、多くの場合女性のモデルが佇んでいます。画家はモデルたちこそが重要なインスピレーションの源であると語っており、室内で彼女たちと向き合う親密な時間は制作の過程に欠かせないものでした。

画家は晩年、病や戦争といった困難に見舞われ、自由な移動も制限されましたが、若い頃から集めていた気に入りの壁掛けや観葉植物などから色彩と造形の着想を得て、その閉じられた環境で無限の想像力をはばたかせました。

草間彌生

《ベッド、水玉強迫》(no.30)には、草間彌生(1929-)の芸術を解き明かすためのいくつかの特徴が集約されています。水玉模様
の反復は、今日において彼女の代名詞と言えるものですが、モチーフを集積させるという行為はそもそも、幼少期における幻
覚や幻聴の経験にゆらいるオブセッション(強迫)に基づいています。寝台に見られるおびただしい数の、布のなかに詰め物を入
れた突起物は、いわゆるソフト・スカルプチャー(やわらかい彫刻)の動向に連なるものであり、それらを表面に集積させた
家具や日用品のシリーズは、1960年代にアメリカを中心に隆盛したポップ・アートに先駆けていました。

人間が誕生して初めて世界を眺める場所、あるいは衰弱して最後にその瞳を閉じる場所であるベッドとは、それゆえに生と死に
深く関連しています。安息を得るための眠りの時間は、夢という無意識と遭遇する機会でもあり、意識の下層に圧縮された記憶
に触れるためのベッドという空間のいたるところで、彼女ならではのオブセッションが堰を切ったように展開されています。

ヴォルフガング・ティルマンズ

ドイツ出身のヴォルフガング・ティルマンズ(1968-)は、今日に至るまで第一線での活動を続けている写真家です。1990年代に『i-D』をはじめとする雑誌に掲載された、自らを取り巻く日常を捉えた作品で一躍脚光を浴びて以来、私的な世界を撮影した写真の舞台として繰り返し登場するのが、ベルリンをはじめとするドイツの各地、そしてニューヨークやロンドンといった活動拠点における住居やアトリエです。

写真というメディアの可能性を最大限に探究しているティルマンズが、室内を撮影する際に窓のモチーフにひときわ注意を払っているのは偶然ではありません。時間によってその表情を変える光を屋外から室内へと導く窓は方形であり、目の前の世界を撮影するためにカメラを覗いた際のフレームと同じかたちをしています。時間や空間、そしてアングルをさまざまに変更して、このかたちによる反復とずれを生じさせながら、ティルマンズは写真そのものの自意識を浮かび上げようとしています。

高田安規子・政子

高田安規子・政子(1978-)は一卵性双生児のアーティストユニットで、身近な物や日常風景のスケールを操作し、大きさの尺度や時間感覚における人々の認識を問い直す作品を制作してきました。

本展では、部屋を構成する普遍的な要素である窓や扉をモチーフとしています。無数の窓には閉じられたものと開かれたものが混在し、ステイホーム以降変容してきたパブリックとプライベートの境界を問いかけます。窓の向こうに見える温かな明かりは、それぞれの部屋のなかで織りなされる暮らしを想起させますが、一方で、そのさらに奥には美術館の周りに広がる森が覗き、建物の内と外の関係が揺らぎ始めます。いくつもの小さな窓のなかで、光や風景が移り変わり、時間や季節といった大きな流れが展開しています。

鍵を挿したままの大小の扉は、部屋という空間を閉じる／開くという行為と繋がり、徐々に外へと出かけていくことが増え、閉鎖から開放へと向かいつつある私たちの現状を示唆するとともに、向こう側に広がる世界への想像を掻き立てます。

佐藤翠+守山友一朗

佐藤翠(1984-)は、クローゼットを主題とした一連の作品を描き続けてきました。愛着のあるものばかりが収納されるクローゼットは、本来は部屋の住人だけがその扉を開けることのできる私的な空間です。このような場面に植物のモチーフが登場したのは近年のことであり、閉じられた室内と開かれた庭のイメージが重なり合っ
て、装飾的な光景が実現されています。

長年にわたってバリエーションとした守山友一朗(1984-)は、心が惹かれた旅先の風景や日常の場面を観察して、その奥に潜むもうひとつの世界を描き出します。画面全体に展開する何気のない自然の断片や、馴染みの深い自宅の室内を描いた作品から、眩いばかりの煌めきが放たれているのは、透明感のある薄い油彩の連なりが巧みに扱われているためです。

ふたりの画家による共作を含んだ、室内と自然の関係をあらためて問い直した絵画による今回のインスタレーションは、世界の片隅にある小さな部屋そのものが、現実と記憶のあわいで夢をみているかのような様相を呈しています。

出品作品リスト

ベルト・モリゾ

1 バルコニーの女と子ども

1872年
油彩／カンヴァス
石橋財団アーティゾン美術館
展示期間：5月20日-7月2日

2 テラスにて

1874年
油彩／カンヴァス
東京富士美術館

3 ベランダにて

1884年
油彩／カンヴァス
ポーラ美術館

ヴィルヘルム・ハマスホイ

4 陽光の中で読書する女性、 ストランゲーゼ 30 番地

1899年
油彩／カンヴァス
ポーラ美術館

5 ピアノを弾く妻イーダのいる室内

1910年
油彩／カンヴァス
国立西洋美術館

ピエール・ボナール

6 山羊と遊ぶ子供たち

1899年頃
油彩／カンヴァス
ポーラ美術館

7 りんごつみ

1899年頃
油彩／カンヴァス
ポーラ美術館

8 子供と猫

1906年頃
油彩／カンヴァス
愛知県美術館

9 浴室の裸婦

1907年
油彩／カンヴァス
新潟市美術館
展示期間：1月28日-4月14日

10 浴槽、ブルーのハーモニー

1917年頃
油彩／カンヴァス
ポーラ美術館

11 地中海の庭

1917-1918年
油彩／カンヴァス
ポーラ美術館

12 花

1933年頃
油彩／カンヴァス
国立西洋美術館
(吉井長三氏より寄贈)

13 静物、開いた窓、トルーヴィル

1934年頃
油彩／カンヴァス
アサヒビール大山崎山荘美術館

14 かがみこむ裸婦

1938-1940年
グワッシュ／紙 (カンヴァスに貼付)
ポーラ美術館

15 白い服の少女

1942-1945年
油彩／カンヴァス
ポーラ美術館

16 ミモザのある階段

1946年頃
油彩／カンヴァス
ポーラ美術館

エドゥアール・ヴェイヤール

17 窓辺の女

1898年
油彩／厚紙
愛知県美術館

18 服を脱ぐモデル、 マルゼלב大通り

1909年頃
ディステンパー／紙 (カンヴァスに貼付)
ポーラ美術館

19 画家のアトリエ

1915年
パステル／紙
ポーラ美術館

20 書斎にて

1927-1928年
油彩／カンヴァス
ヤマザキマザック美術館

アンリ・マティス

21 中国の花瓶

1922年
油彩／カンヴァス
ポーラ美術館

22 紫のハーモニー

1923年
油彩／カンヴァス
ポーラ美術館

23 室内：二人の音楽家

1923年
油彩／カンヴァス
ポーラ美術館

24 窓辺の婦人

1935年
パステル／厚紙
ポーラ美術館

25 襟巻の女

1936年
油彩／カンヴァス
ポーラ美術館

26 リュート

1943年
油彩／カンヴァス
ポーラ美術館

- ・ 出品番号は会場における展示の順序とは異なります。
- ・ 会期中に展示替えがある作品には、展示期間が付されています。

- ・ 佐藤翠 + 守山友一朗のセクションについては、佐藤翠作品に●が、守山友一朗作品に■が、共同には●+■が付されています。

草間彌生

27 コーヒーカップ

1980年
アクリル/カンヴァス
個人蔵

28 南瓜

1981年
アクリル/カンヴァス
個人蔵

29 蝶

2001年
ミクストメディア
個人蔵

30 ベッド、水玉強迫

2002年
ミクストメディア
ポーラ美術館

ヴォルフガング・ティルマンス

31 14番街

1995年
インクジェットプリント、クリップ
ポーラ美術館

32 窓/カラヴァッジョ

1997年
Cプリント
ポーラ美術館

33 静物、ボーン・エステート

2002年
インクジェットプリント、クリップ
ポーラ美術館

34 スカイブルー

2005年
Cプリント
ポーラ美術館

35 デューラー通り

2009年
Cプリント
ポーラ美術館

36 あふれる光 (a)

2011年
インクジェットプリント(アルミニウムに貼付)、
アーティスト・フレーム
ポーラ美術館

37 あふれる光 (b)

2011年
インクジェットプリント(アルミニウムに貼付)、
アーティスト・フレーム
ポーラ美術館

38 あふれる光 (c)

2011年
インクジェットプリント(アルミニウムに貼付)、
アーティスト・フレーム
ポーラ美術館

39 あふれる光 (d)

2011年
インクジェットプリント(アルミニウムに貼付)、
アーティスト・フレーム
ポーラ美術館

40 草

2014年
インクジェットプリント
(アルミニウム複合版に貼付)、
アーティスト・フレーム
ポーラ美術館

高田安規子・政子

41 Open/Closed

2023年
ドア
12分の1スケールのドア
鍵と鍵穴プレート
作家蔵

42 Inside-out/Outside-in

2023年
12分の1スケールの窓(180個)
作家蔵

佐藤翠 + 守山友一朗

43 Floating Violas Closet

● 2022年
アクリル、油彩/カンヴァス
作家蔵

44 Anemones by the Window

● 2022年
アクリル、油彩/カンヴァス
作家蔵

45 Light Blue Corner

● 2022年
アクリル、油彩/カンヴァス
作家蔵

46 Pale Pink Corner

● 2022年
アクリル、油彩/カンヴァス
作家蔵

47 Rose Garden Closet

● 2022年
アクリル、油彩/カンヴァス(二曲屏風)
作家蔵

48 Roses at Night

■ 2022年
油彩/カンヴァス
作家蔵

49 Shadow on Rug

■ 2022年
油彩/カンヴァス
作家蔵

50 Sunset on Pansies

■ 2023年
油彩/カンヴァス
作家蔵

51 Cosmos

■ 2022年
油彩/カンヴァス(二曲屏風)
作家蔵

52 Rose Room

● 2022年
+
■ アクリル、油彩/カンヴァス
作家蔵

From Bonnard to Tillmans and Contemporary Artists
Interior Visions

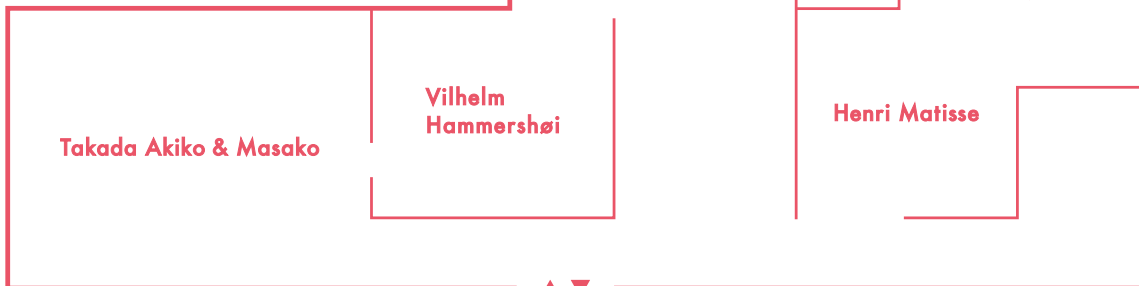
部屋の
みる夢

ボナールからティルマンス、
現代の作家まで

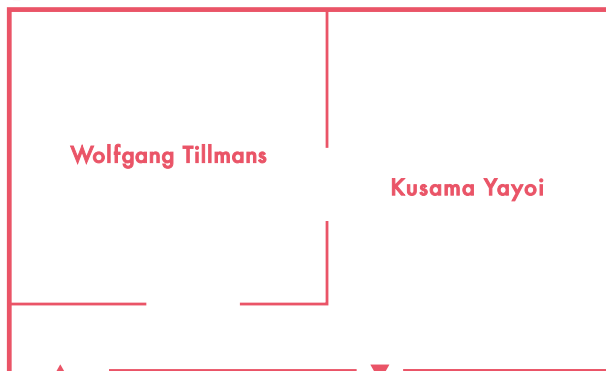
Sat., January 28 – Sun., July 2, 2023

- There is no fixed viewing order for this Section. Please view the exhibits shown on the map in any order you wish.
- Photographing is allowed in this exhibition, unless taking movies, disturbing others or using flashlight, tripods or selfie sticks.

B1 Section 1



B2 Section 2



Berthe Morisot

Impressionist artist Berthe Morisot (1841-1895) is highly evaluated for her scenes of modern life painted with swift brushstrokes. In depicting the daily life of her family and friends, including her daughter Julie (no.3), she was partial to spaces, such as verandas and balconies, intermediate between “indoor” and “outdoor”. Using bright colors in representing such spaces, she painted intimate interior scenes while experimenting with new methods of outdoor painting, as opposed to traditional studio painting.

In the period Morisot lived, opportunities for women to participate in society were limited. Women spent most of their time in the indoor environment of the home. As a female painter, at a time when male artists dominated, she was able to capture the borderline between interior and exterior, home and society. Her painting also allows us the opportunity to rethink home and lifestyle in our own time.

Vilhelm Hammershøi

Danish painter Vilhelm Hammershøi (1864-1916) produced around 370 works during his career as an artist. One third of the total are interior paintings, mostly produced in his home at 30 Strandgade (no.4) where he lived for about 10 years from 1898. The buildings and interiors of Christianshavn, Copenhagen’s historic district where his home was located, became a source of Hammershøi’s art.

While based on the interiors of his home, Hammershøi’s carefully selected motifs take on a sophisticated character. This quality is heightened by the reticent personalities of his models – his sister Anna, his mother Frederikke, and his wife Ida – and his full understanding of them in their daily life. Using a limited palette of gray tones and extracting harmonious interiors in clear lines, Hammershøi captured the reality of time accumulated from the past.

Pierre Bonnard

Pierre Bonnard (1867-1947), a member of the Nabis school in Paris at the end of the 19th century, focused on his domestic surroundings, capturing memories in subjects related to his home and family, including nieces, nephews, and pets. He met his wife, Marthe, in 1893. She had the habit of bathing several times a day. Painting her in different compositions and lighting as she groomed herself gave Bonnard an ideal opportunity to experiment with different forms of expression while at the same time preserving his very private memory of Marthe.

Aside from depicting interior scenes, Bonnard also created decorative panels and folding screens for interior display. These were full of scenes from his memory, sometimes mixed with imagined elements, of people relaxing and children playing in abundant nature. Such joyous visions invited people inside the room to envision the pleasures of the open air and light outside the room.

Édouard Vuillard

Along with Bonnard and others, Édouard Vuillard (1868-1940) was a prominent Nabis artist in Paris in the 1890s. His paintings were also influenced by his involvement in Symbolist theater stage design that required skillful lighting effects and sets to evoke the emotions of the scenes and actors. Living together with his mother for many years, Vuillard used the effects of light and darkness to create scenes of her life at home, ranging from the calmness of the dining table to the gloomy interior atmosphere around her.

From 1900 onwards, Vuillard received numerous commissions for portraits of celebrities and members of the upper class. For Vuillard who said, “I don’t paint portraits, I paint people in their homes,” the rooms represented more than backgrounds. The motifs surrounding the people in the rooms where they spent their time were important elements in describing the personalities of those people.

Henri Matisse

Henri Matisse (1869-1954) was labeled “Fauve” (wild beast) for the vivid color and bold brushwork of his painting exhibited at the Salon d’Automne in 1905. Attracted by the sunlight in the south of France, he made Nice his base after 1921. There he depicted interior space, with the light of the Mediterranean Sea sometimes streaming through windows, giving particular attention to wall hangings, furnishings, and the costumes of his models. With such elements, he had unlimited opportunity to explore the expression of color and space in his paintings.

Female models are present in most of Matisse's paintings. He said that they were an important source of inspiration and that the time in interior spaces with the models was integral to his creative process.

Matisse suffered from illness and the war in his later years. Though his freedom of movement was limited in a confined environment, there was no limit on his imagination and he could draw inspiration for color and form from houseplants and favorite wall hangings he had collected since his youth.

Kusama Yayoi

Bed-Dots Obsession (no.30) brings together a number of characteristic elements to understand the art of Kusama Yayoi (1929-). Repetitive polka-dots are her signature motif today, but obsessive accumulation of motifs originate in her childhood experiences of visual and auditory hallucinations. Covered with numerous stuffed fabric protrusions, the bed is part of a trend toward so-called soft sculpture in her series of household objects that predate the Pop Art, particularly in the United States, of the 1960s.

The bed, where we have our first view the world and where we close our eyes for the last time at the end of our days, is deeply associated with life and death. The time of sleep for rest is also an opportunity to engage with our unconscious in dreams and the bed, where Kusama's obsession unfolds in full force, is the locus of memories of the deepest level of consciousness.

Wolfgang Tillmans

German born photographer Wolfgang Tillmans (1968-) continues to be active on the front lines of photography. His work capturing everyday life came to prominence after being regularly published in magazines such as *i-D* in the 1990s. Since then, his photographs of his personal world with his residences and studios in Berlin and other locations in Germany, as well as in New York and London, where he is based, repeatedly appearing.

Exploring the full potential of photography as a medium, Tillmans pays particular attention to the motif of windows in interiors. The window guides light, that changes throughout the day, from outside to inside and takes the same shape as the rectangular frame, similar to looking through the lens of a camera to capture the world in front of you. By variously altering time, space, and angle, Tillmans attempts to create repetition and deviations in the form and to bring attention to the self-consciousness of the photograph itself.

Takada Akiko & Masako

Artistic unit Takada Akiko and Masako (1978-) are identical twins who create works that manipulate the scale of familiar objects and landscapes to bring viewer perceptions of scale and sense of time into question.

The motif of their installation for this exhibition is windows and doors, universal elements of rooms. The grouping of countless windows, some open and others closed, gives reference to the transformation of public and private space boundaries during Covid "stay at home" practices. Warm light seen through the windows reminds us of the fabric of lives woven in each room. A glimpse from behind the windows of trees surrounding the museum reveals the shifting inside/outside relation of the building. The flow of time and seasons unfolds as the light and scenery change in the many small windows.

The large and small doors with keys still in place suggest the act of closing and opening the space of a room, going outside gradually and gradually moving from "closed" to "open." This stirs the imagination of the world that lies beyond.

Sato Midori + Moriyama Yuichiro

Sato Midori (1984-) has created a series of paintings on the subject of closets, private spaces accessible exclusively to a room's inhabitants who open the doors to their personal items. In recent years, plant motifs have appeared in such painting, creating a decorative scene with overlapping open gardens and closed interiors.

Moriyama Yuichiro (1984-), formerly based in Paris for many years, depicts a world hidden behind the scenes in his observations of everyday life and travel destinations that have fascinated him. His dazzling works, with casual fragments of nature and familiar interiors, employ touches of thin, translucent oil paint.

This installation of paintings, including a joint work by the two artists, re-examines the relation between nature and interiors and presents a small room in a corner of the world that appears as if in a space between memory and reality.

List of Works

Berthe Morisot

1 Woman and Child on the Balcony

1872
oil on canvas
Artizon Museum,
Ishibashi Foundation, Tokyo
On view from May 20 to July 2

2 On the Terrace

1874
oil on canvas
Tokyo Fuji Art Museum

3 On the Veranda

1884
oil on canvas
Pola Museum of Art

Vilhelm Hammershøi

4 Woman Reading in Sunlight, Strandgade 30

1899
oil on canvas
Pola Museum of Art

5 Interior with Ida Playing the Piano

1910
oil on canvas
The National Museum of
Western Art, Tokyo

Pierre Bonnard

6 Children Playing with a Goat

ca. 1899
oil on canvas
Pola Museum of Art

7 Apple Gathering

ca. 1899
oil on canvas
Pola Museum of Art

8 Child with Cats

ca. 1906
oil on canvas
Aichi Prefectural Museum of Art

9 Woman Bending Over

1907
oil on canvas
Niigata City Art Museum
On view from January 28 to April 14

10 Woman in the Tub, Blue Harmony

ca. 1917
oil on canvas
Pola Museum of Art

11 Mediterranean Garden

1917-1918
oil on canvas
Pola Museum of Art

12 Flowers

ca. 1933
oil on canvas
The National Museum of Western Art, Tokyo
Donation Mr. Chozo Yoshii

13 Still Life with Open Window, Trouville

ca. 1934
oil on canvas
Asahi Beer Oyamazaki Villa
Museum of Art

14 Crouching Nude

1938-1940
gouache on paper
(mounted on canvas)
Pola Museum of Art

15 Girl in White Dress

1942-1945
oil on canvas
Pola Museum of Art

16 Stairs with Mimosa

ca. 1946
oil on canvas
Pola Museum of Art

Édouard Vuillard

17 Woman by the Window

1898
oil on millboard
Aichi Prefectural Museum of Art

18 Model Undressing, Boulevard Maeshherbes

ca. 1909
distemper on paper
(mounted on canvas)
Pola Museum of Art

19 The Painter's Studio

1915
pastel on paper
Pola Museum of Art

20 In the Study

1927-1928
oil on canvas
The Yamazaki Mazak
Museum of Art

Henri Matisse

21 Chinese Vase

1922
oil on canvas
Pola Museum of Art

22 Harmony in Violet

1923
oil on canvas
Pola Museum of Art

23 Interior: Two Musicians

1923
oil on canvas
Pola Museum of Art

24 Woman by the Window

1935
pastel on cardboard
Pola Museum of Art

25 Woman with a Scarf

1936
oil on canvas
Pola Museum of Art

26 The Lute

1943
oil on canvas
Pola Museum of Art

- The same artwork numbers are used in both the catalogue and the galleries, but the works are not displayed in numerical order.
- Works are on view throughout the exhibition period unless otherwise indicated.

- Key to symbols on illustrations:
 ●=Sato Midori, ■=Moriyama Yuichiro,
 ●+■=Sato Midori+Moriyama Yuichiro

Kusama Yayoi

27 Coffee Cup

1980
acrylic on canvas
Private Collection

28 Pumpkin

1981
acrylic on canvas
Private Collection

29 Butterfly

2001
mixed media
Private Collection

30 Bed-Dots Obsession

2002
mixed media
Pola Museum of Art

Wolfgang Tillmans

31 14th street

1995
inkjet print, clips
Pola Museum of Art

32 window/Caravaggio

1997
c-print
Pola Museum of Art

33 still life, Bourne Estate

2002
inkjet print, clips
Pola Museum of Art

34 himmelblau

2005
c-print
Pola Museum of Art

35 Dürerstrasse

2009年
c-print
Pola Museum of Art

36 Filled with Light, a

2011
inkjet print mounted on aluminum
in artist's frame
Pola Museum of Art

37 Filled with Light, b

2011
inkjet print mounted on aluminum
in artist's frame
Pola Museum of Art

38 Filled with Light, c

2011
inkjet print mounted on aluminum
in artist's frame
Pola Museum of Art

39 Filled with Light, d

2011
inkjet print mounted on aluminum
in artist's frame
Pola Museum of Art

40 Weed

2014
inkjet print mounted on dibond
aluminum in artist's frame
Pola Museum of Art

Takada Akiko & Masako

41 Open/Closed

2023
door, 1:12 scale door
keys and keyhole plates
Collection of the Artist

42 Inside-out/Outside-in

2023
1:12 scale windows (180 windows)
Collection of the Artist

Sato Midori + Moriyama Yuichiro

43 Floating Violas Closet

● 2022
acrylic and oil on canvas
Collection of the Artist

44 Anemones by the Window

● 2022
acrylic and oil on canvas
Collection of the Artist

45 Light Blue Corner

● 2022
acrylic and oil on canvas
Collection of the Artist

46 Pale Pink Corner

● 2022
acrylic and oil on canvas
Collection of the Artist

47 Rose Garden Closet

● 2022
acrylic and oil on canvas
(two-panel folding screen)
Collection of the Artist

48 Roses at Night

■ 2022
oil on canvas
Collection of the Artist

49 Shadow on Rug

■ 2022
oil on canvas
Collection of the Artist

50 Sunset on Pansies

■ 2023
oil on canvas
Collection of the Artist

51 Cosmos

■ 2022
oil on canvas
(two-panel folding screen)
Collection of the Artist

52 Rose Room

●+■ 2022
acrylic and oil on canvas
Collection of the Artist